

議事録

項目	第1回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会
協議日時	平成30年7月4日(金) 14:00~16:00
協議場所	熊本市役所 別館 駐輪場8階会議室
協議者 (敬称略)	<p>東海大学 現代教養センター(九州教養教育センター) 特任教授 市川 勉(会長)</p> <p>熊本大学大学院 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授 星野 裕司(副会長)</p> <p>熊本大学大学院 先端科学研究部(工学系)環境保全分野 准教授 皆川 朋子</p> <p>九州大学大学院 芸術工学研究院 環境デザイン部門 准教授 藤田 直子</p> <p>公益財団法人 熊本市美術文化振興財団 理事 葉山 耕司</p> <p>公益財団法人 地方経済総合研究所 専務理事 木村 正明</p> <p>キリン株式会社 CSV 戦略部 絆づくり推進室 (熊本復興支援担当) 古賀 朗</p> <p>株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング シニアマネージャー 若松 隆一</p> <p>熊本県ボート協会 会長 三井 宜之</p> <p>協業組合江津湖観光 代表理事 江藤 仁美</p> <p>江津湖貸舟協同組合 理事 川上 二矢</p> <p>熊本県立図書館 館長 豊田 祐一</p> <p>一般社団法人 熊本市造園建設業協会 会長 吉村 昌洋</p> <p>一般財団法人 熊本市社会教育振興事業団 理事長 宮原 國臣</p> <p>水前寺江津湖公園愛護会 会長 多神田 喜代太</p> <p>水前寺江津湖(体育館跡)公園愛護会 会長 松尾 直樹(欠席)</p> <p>水前寺江津湖(児童)公園愛護会 会長 小崎 正道(欠席)</p> <p>出水校区自治協議会 会長 渡辺 幸夫</p> <p>砂取校区自治協議会 会長 竹原 寧</p> <p>出水南校区自治協議会 会長 藤瀬 明謙</p> <p>健軍校区自治協議会 会長 村上 徹郎</p> <p>画図校区自治協議会 会長 内藤 征夫</p> <p>泉ヶ丘校区自治協議会 会長 加藤 俊輔</p> <p>若葉校区自治協議会 会長 古閑 勝徳</p> <p>秋津校区自治協議会 会長 藤山 英美</p> <p>水前寺活性化プロジェクトチーム 代表 永野 陽子</p>

	<p>熊本市子育て支援ネットワーク連絡会 会長 西原 明優 熊本県文化協会 副会長 岩岡 中正 熊本記念植物採集会 副会長 奥村 智治 熊本野生生物研究会 事務局企画担当 歌岡 宏信 自然観察指導員熊本県連絡会 事務局長 田畑 清霧 日本野鳥の会熊本県支部 副支部長 坂梨 仁彦 水と緑ワーキンググループ 代表 大住 和子</p> <p>大西 一史市長 吉澤総括審議員兼都市政策部長 藤岡土木部首席審議員 事務局・関係課</p>
--	--

<議題>

- (1) 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会について
- (2) 水前寺江津湖公園について
- (3) 今後のスケジュール

【議事録】

●皆様こんにちは。熊本市長の大西です。本日は第1回の水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会に大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、ありがとうございました。また、各委員の皆様方におかれましては、大変ご多用のところ、委員へのご就任いただきましたこと、心から感謝を申し上げる次第でございます。本当にありがとうございました。

この水前寺江津湖公園は、皆さんご周知のとおり、熊本の街なかにながら、阿蘇の伏流水がもたらす1日約40万トンの量にもおよぶ豊かな湧水がある地下水「水の都くまもと」を表すまさにシンボルとしての場所だというふうに思います。野生生物も豊富でありまして、子ども達の自然学習ということもできますし、また一方では、ウォーキングをされる方でありまして、朝からお散歩をされる方、あるいはボートに乗ったり、水遊びをしたり、これからの季節は特に子ども達も多く出かけたりするような憩いの場所ということで、熊本市民のみならず、ほんとに多くの皆様に愛される場所でもあるわけです。しかし、水前寺江津湖公園は様々な課題を抱えております。湧水の問題、地下水の問題等については、また、色々な関係機関との協議の中で、量と質を守っていくということを今取り組んでいるところでございますが、2年2ヶ月前の熊本地震の折には、水前寺成趣園の池の水が枯れてしまったというようなことがあったりということで、非常に地震の影響も含めてですけれども、様々な影響を我々は、また科学的にも一方では解明していかなければいけないということではあります。それだけでなく、たとえばベンチであるとか、トイレであるとか、様々なこういう施設の老朽化でありますとか、あるいは、そういう施設の更新を今からしなければいけないが、どうやっていくのかという問題もあります。また環境面では、外来の魚だとか生物が非常に増加しているなど、外来種の防除というのが非常に重要になって

きます。最近、テレビでは池の水を全部抜くというような番組をやっています、私も時々興味深くみせていただくんですが、そこにいた生態系をもう一回取り戻すんだというような動きがあっていますが、さすがに江津湖の水を全部抜くというわけにはなかなかいかないんですけれども、ただ、そういう環境を守っていくためには、各それぞれの分野の皆さん方がお揃いでございますので、皆さんの力でもって、こういった環境、江津湖の環境、あるいは水前寺江津湖公園の利活用というものに、ぜひ、ポジティブな面でのいろんなご提案をいただければというふうに考えております。これから、公園をやはり資産というふうに考えて、これをどう未来の世代に向かって、つないでいくのか、そういう視点で考えていくと、より今から全国都市緑化フェアを誘致しようとしたり、いろいろなこと、様々やっていきますが、それは一過性のものにならずに、やはり永く永く、受け継がれていくもの、そういったものにできればというふうに思っておりますので、皆さん方がそれぞれ、お感じになったことやご提言、こういったものを出していただいて、水前寺江津湖公園が、さらに魅力を増すように、皆さん方の力をお貸しいただきたいというふうに思います。そして、先人からずっとこう与えられた豊かな自然に、やはり我々は、守られて今生きているんだということでもありますので、そうした観点から、この自然の保護ということでも、他にないこの場所でもありますので、この熊本の象徴としての場所としてまた、ぜひ皆さん方、有意義なご議論を行っていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。最後になりますけれども、この会議を通して、水前寺江津湖公園がますます活性化をし、また本日ご出席の皆様方のご健勝、ご多幸をお祈り致しまして、甚だ簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。お世話になります。ありがとうございました。(市長)

～議題(1)「水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会について」後～

- 2つの部会で議論をし、そしてこの協議会で報告いただき、そして進めていただくという案でございます。(会長)
- 秋津校区自治会長の藤山です。この2つの部会は、9名ずつの構成でございますか？(藤山委員)
→はい、事務局でございます。案としまして、9名の皆様方で部会の方は構成してございます。(事務局)
- 他の委員の問題提起、色々な反映というのは何らかの形でされますか。(藤山委員)
→基本的には月1回で、この協議会が次に開かれるときに、各部会からの報告があるかと思ひます。それについて、委員の皆様からご意見をお聞きするという形になるかと思ひます。(会長)

- その会のときに、他のメンバーの意見反映はできるということですね？（藤山委員）
→そうですね。事務局、それでよろしいでしょうか。（会長）
→今、言われたとおりなんですけど、地元の方のご意見は適宜、伺わせていただきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。（事務局）

～議題（２）「水前寺江津湖公園について」後～

- 自然観察指導員熊本県連絡会の田畑です。まず外来生物に関する部分になりますけれども、駆除とか非常にたくさん取組んでいただいております、ありがたいと思います。出てしまって、すでに増えたものの駆除は辛い大変な仕事と思いますが、プラス、今後新たに出さない、まだ話題になっていない生き物も逃がさないという部分がまだ弱いように思いますので、今でてしまったものの対策だけではなく、逃がさないという部分も強化いただければと思うところです。

併せまして、単に逃がさないとか駆除だけではなく、本来、江津湖エリアにいる生き物を大事にする、その存在を多くの市民に知っていただいて、それを大事にするっていう部分をお願いしたいなと思います。それに関してまして、たとえば江津湖の真ん中はもう外来の生き物だらけという状況で、本来いたはずの生き物は周辺の浅い、江津湖に流れ込んでくる手前のまだ浅いところにいます。ここが非常に重要かと思いますが、そういう場所の保全に関しての取組みはまだ薄いのではないかなと思います。そういうところも気をつけて見ていただきながら取り組めたらと、私有地なんかもいっぱい入ってややこしいとは思いますが、というふうに思いました。

それも含めまして、最後にご説明いただきました大きなイベントに関する部分で非常に心配するんですけども、外来生物がなぜその土地に入ったのか、ということ进行分析する中で多くでてきますのが、何か植物を公園に植えて、その後そこから流出する。花壇に植えて、そこから周辺に出て行って困ってしまう事例が全国的に非常に多いと思います。また植物を持ってきて植える時には土も来ます。それと一緒に、本来、熊本にいなかった生き物が運びこまれてということが、これもまた全国的に非常に多く起きている話です。以前の緑化フェアと違い、今は規模も大きくなるのではないかと非常に危惧いたします。緑ならいいやというふうな、いろんなのがあったらいいよねという時代の緑化フェアと違い、外来生物の問題に国をあげて大きく取り組んでいるときに行う緑化フェアが、外来生物でその後に悪影響を及ぼしてはいけないと思いますので、特に他所からの持ち込みに関しては極力配慮いただくようなそういう取組みをご検討いただきたいと思います。

そして、歴史を大事にするという観点も先ほどからの説明に多くありました。熊本の自然の歴史を大事にする、本来熊本にいる植物、彼らが上手く育ってくれるような緑化、そういうふうなスタンスをお願いしたいなと。すでに彼らが生息している場所を変えて、他所からのを植えるというのは、逆の行為になってしまうと思いますので、プランの基本の部分でその辺は配慮いただければと思います。以上です。（田畑委員）

●今のご意見、事務局の方も記録して、参考にして、今後の施策にしていただければと思います。その他ございませんでしょうか。(会長)

●私も同意見といいますが、私は文化事業財団理事となってるんですが、実は日常的にカヤックを使って、四季を通じて、江津湖を観察しています。特に水上部分もそうなんですけど、水中を観察している場合が多いんですね。そうしますとシーカヤックという乗り物は長さ5mくらい、幅が50cmから60cmくらいで、だいたい外洋をいくことができるものなんですけれども、トレーニング場所として江津湖を使わせていただいているというかたちなんです。その関連で、江津湖だけではなくて、ほぼあらゆる水域、川も含めて、九州全域のことを私は分かっているつもりなんですけど、特に淡水においては、ほんとに奇跡的だと言っていいくらい、水中生物ですとかが多い、種類も多い、そして外来生物の危険ももちろんありますけれども、さっきおっしゃってたようにいるところにはまだたくさんもともといたタナゴの類ですとか、我々はドンカッチョといっていましたけど、ハゼみたいなやつとかですね、ザリガニとかなじみやすいものも含めて、あるいは天然の鮎のようなものまでいるので、奇跡的なポイントです。ただしそれはボールペンの先のポイント、先ほどの地図でいくと、そのぐらいのポイントしかない。それとまた、私しょっちゅう泳いでいます。泳ぐというのは、トレーニングの途中で、トレーニングするときに、ロールという方法をつかって、裏返しになって、反対から起き上がる方法をやるんですけれども、そのときに撮影をしたり、観察をしたりするんですが、そうやって、そのついでに泳ぐ。そして、ここは泳いでもいいなというポイントは、それがまたピンポイントプラス、ボールペンの線で引いたくらいのところしかないんですけどね。それでまったく同意見で、ただ学識経験者ではないので、どこをどうしたらいいかよくわからないんですが、一番気になっておりますのは、あまり余計なことはしない方がいいなという感覚です。特に護岸工事、それから夜間照明。夜間が特に活発化します。水中は。夜間潜っているのかといわれたら、そんな危ないことはしません、やはり観察はしに行きますので、行っていただければわかりますが、生物がうごめいている様子が水面までびびび伝わってきます。それは行って見なければわからない、泳いで見なければわからない、漕いでみなければわからない。そういった感性の部分でしっかり受け止めていただいて、その上でやって下さい。やるのであれば。夜間照明ですね。たしかに夜行くと、ちょっと危ないなと感じるんですが、動物たちにとっては、必要なものではないかなと。それから、あまりでてきませんけれども、水深が浅くなりつつあります。これはここ10年くらいの観察で、そうなんですけど、以前はひっくり返って、ロールができたところ、できなくなってきているというところなので、いつまでそういったことができるのかが、もうわからないということです。おそらく湧水量も減っているということです、40万tありますからそれがすごいんだと今言っているレベルですと、感覚的には非常に弱いと思います。そういうことです。ですので、ぜひここにいらっしゃる皆さんで、泳いでみたい、潜ってみたい、カヌーに乗ってみたいという方がいらっしゃれば、いつでもご案内致します。(葉山委員)

●私の方も同意見です。以前に、熊本市から70年代か80年代に河岸植生結果をみせていただき、整理しましたところ、現在は80年代にみられた植生の50~60%の水生植物が確認できなくなっていました。今河岸工事の話が出ましたが、資料の2-3に、2枚目の例えば、明治7年の絵図と現状図にみられるように水域が減少してきていますが、主な植物の減少の要因の一つは護岸工事などにより、エコトーンと呼ばれるなだらかな河岸に生育する抽水植物などの湿性植生が生育できるような場所がどんどん縮小してきたことがあげられます。先ほど、保全するゾーンはきちんと保全するというをおっしゃっていただいたんですけども、できれば例えば、シードバンク（埋土種子）を活用した河岸植生の復元も必要であると思います。例えば種は長いもので40年くらい生きているものがあるんですね。土の中に、そういったものを発掘して、水辺の植物の再生であるとか、そういったことも併せて行くと、緑化フェアとして素晴らしいものになるのではないかと思います。当然、都市公園としての緑化も行われると思いますが、その際には外来種の拡大にかなり注意が必要だと思いますが、在来種をベースに、みられなくなった植物を復活させることまで含めたことをやると、価値の高い緑化フェアになると思います。シードバンクも寿命がありますので、手遅れにならないように大学も協力させていただきながら、河岸植生を復元できたらと考えています。これらもあわせてやると実りのある、生物多様性の保全とか復元ということにもつながると、ということを考えていけたらと思っています。それと、スイゼンジノリが今、肉眼ではみられないということなんですけれど、現状については、存在しているのか、それとも、すごい少なくなって見つからないのか、どちらであるかコメントをいただければありがたいと、どなたかご存知の方がいらっしゃったら、よろしくをお願いします。（皆川委員）

→たぶん、ほぼいないです。あそこのもともと、天然記念物の圃場にいたスイゼンジノリは、うちの栴田名誉教授が阿蘇に持って行って、今増殖しています。相当数増殖していますので、栴田教授とちょっと色々共同でやっていただくといいかと思います。栴田先生は、あそこの神社の方と共同でやってますんで、そちらの方には、神社の方には今、少し設置してますから、栴田先生とちょっと相談していただくといいかなと思います。現位置のあそこで、しょっちゅう、洪水時に、流されてしまったということで、種は保存してありますので、DNAはちゃんと残ってますんで、大丈夫ですから、そういった形で、ご協力いただいたらいいんじゃないかなと思います。

その他、ございませんでしょうか（会長）

●上江津湖で貸ボートをやっている川上でございますけれども、14~15年やっております。今まで、この上江津湖の方でも下江津湖でも同じですが、藻という草が、この江津湖の中の深いところから根が出て、今頃になるともう、貸舟、ボートが出せない状態だったんですけども、今年は、これが1本も生えていないんです。ですから市の方が、公園課の方が何かの処置をされたのか、薬か何かでされたのか、私は今、電気ショッカーという言葉を知りましたが、たぶんこれで全滅してきたんじゃないかな

いかなと、ほとんど全滅しました。もうこれは、私達にとれば、もうありがたいことなんですけど、やっぱり、今話を聞きますと、外来種であっても大事にせにゃいかなという方もおられますし、けど私達みたいに、貸ボートをやっていて、この藻が舟に巻きかかるんですね、スクリューに巻くんです。ですからお客さんとのトラブルがもう絶えないんですね、毎年毎年、私達も市と一緒にやって、藻取りをやってきましたけども、生態系が変わらないのであれば、今の状態でこの藻を少しずつなくしてもらいたいというのが、私の今の考えですけども、皆さんが、どういうお答えになるかは分かりませんが、電気ショッカーがたぶん影響しているのではないかなと今ちょっと考えましたもんですから。特に何か草殺しとか何か市の方でされましたでしょうか。(川上委員)

→事務局ですけれど、特に、何もそういうものはしてございません。(事務局)

- たぶん私は電気のことによってちょっとひらめいたんですけども、たぶんこちらの方の影響かなと思うんですけども、もう完全にという言葉で私は言い切ってしまうくらい、なくなっています。もう毎年毎年、今頃、舟は出されませんでしたけれども。(川上委員)

→電気ショッカー船は、外来の魚を捕るのに使っていて、外来の草は、藻狩り船という、別の舟でとられています。(環境共生課)

- 藻取りはもう、十何年私も一緒にやってきまして、やっぱり職員の方も一生懸命になってやっていて、もう絶対あの深い3mもあるところなんか全然何も届かんもんですけん、ずっと根がはってですね、上だけ取って、今まで処理されたんですが、今年は根っこからないんです。私達にとれば、ほんとありがたいことなんですから、このまま生態系が変わらなければ、今の様な形でやっていただきたいというのが、答えです。(川上委員)

→水草が魚のすみかだったり、隠れ家になっている部分もあったりします。(環境共生課)

- そうなんです。魚の住処だったんですけども、それ以上にお客さんが、やっぱり今まで泣き目にあわせてきました、私達も、ですから、今年はありがたいなと思ってますけど、何をされたのか、特別な処理されて効果があったなら、これを永久的にやっていただきたいと思います。(川上委員)

→事務局なんですけれども、ちょっと原因がよくわからないんですけど、国立環境研究所が出している資料に書いてあるのは、たとえばオオカナダモ、これは異常繁殖した後に、衰退し、安定、消滅する傾向ありというのもございますので、そういう状況もあるのかなと、ちょっとわからない状況ではございますけれども、そういう記述があるというところでご紹介させていただきます。(事務局)

●熊本野生生物研究会の歌岡と申します。江津湖の住人です。子どもの頃から、夜飛び込んで、うなぎをいっぱい捕ってました。親父と一緒に。その頃は石垣だったんですけど、公園になって、うなぎはおらんごとなりまして、悲しい現状です。今は、野生生物に関わる形で動いているので、資料2-2をご覧くださいますと、2-2の開けたページにレッドリストの掲載種のこと書いてございまして、そこには植物と魚類のことが書いてありますが、私は動物の担当なものですから、そこに名前が出ておりませんで、申し上げたいのは、熊本を代表する、あんたがたどこさのタヌキ。タヌキは下江津湖の島がありますね、あそこの島にタヌキがいつも泳いでいて、あそこに暮らしたりしているという事実があったりします。夜、下江津で散歩すると、泳いでいるタヌキをみた人もいらっしゃいます。そういう獣もおりますし、私レッドデータブックの担当をしてる中で、今回今、これまでも同様だったんですけど、カヤネズミを熊本県のレッドデータブックの該当種の中に重ねて入れています。あちこちの環境が変わるとカヤネズミという、カヤですよ、カヤじゃないヨシだ。ヨシに巣をつくるかわいいネズミがあちこちで減ってきているんですが、なぜか江津湖にはまだ残っています。一番下の処理場のすぐ横のボートのスタートのポイントのちいちゃな一角の中に巣があります。もう少しそれが広木の公園の方までいくらかエリアをのばしてもらおうと、カヤをのばしてもらおうと子ども達の環境学習の材料にもなり、江津湖のもともとの古くからの住人をしっかりそこで守っているんだという大きなメッセージにもなると思いますので、先ほどから田畑さんもおっしゃっていましたが、もともとの自然を活かすエリアをひとつ考えながら、緑化の取組みの方も進めていただければと思います。以上です。(歌岡委員)

●水と緑ワーキンググループの大住です。ちょっと話が大きくなりすぎだと思いますが、お話いたします。江津湖の主役はなんといっても「水」だと思っんです。葉山さんもいつもいつてらっしゃいますけれども、その水がきちんともとのような水に戻らないと、今言われたような生物などは戻ってこない。スイゼンシノリなどは、他の場所で養殖して戻ったとしても、将来的には江津湖で自生できるようにしたいですよ。そのためには江津湖の水そのものに注目しなければいけないと思っています。ですからこの全国都市緑化フェアがあるというときに、生き物だけでなく、水も共に取り戻すような、何年かでは江津湖の環境を取り戻すことはできないと思います。でもその取組みがさらに強まったというような動きができればいいと思います。それには上流から下流までのつながりがなければできませんし、その水だからこそ、育つ生物多様性っていうことはあると思います。(大住委員)

●健軍校区自治協議会の村上です。熊本地震が3年前だったから、その2、3年前だったと思いますけど、このメンバーで江津湖の生態系を学習して、そして江津湖の在来種が外来種によって危機に瀕しておるということを経験しました。その後、舟に乗りまして、その電気ショックによる捕獲作戦をやったわけですね。そしてティラピア、鯛のような、大鯛のような大きさのティラピアがもう大量に捕らえました。も

う一部分だったと思いますからね、これは大変だなと、これを全滅するためには大変だなということをおっしゃって、先ほどの説明では、絶滅したというようなこともおっしゃっていただけますが、本当にそうなんですかね。あの継続的に、これはずっと計画的にやっていたかな私は絶滅はできないだろうとおっしゃっていただけて、あのときはキャンペーンというふうなことでやりましたけれども、やはり継続的にやらなければ、あの鯛のような大きさのティラピアとかというのは駆除はできないとあの時は思っておりました。(村上委員)

●ティラピアがいなくなったっていうのはほんとですか。(会長)

→先ほどの川上委員は藻がなくなった、藻が今年みられないということをおっしゃっており、ティラピアはおっしゃったように、なかなか根絶はできなくて、ずっと捕り続けていく必要が今ある状況です。(環境共生課)

●どういうふうな計画でやっておられるのでしょうか。絶滅するためには、大変な作業だと思います。(村上委員)

→今のところ、なかなか根絶までは難しく、江津湖はその閉じられた空間ではなくて、河川の一部なので、外からの流入ということもあるので、今はまずはデータを取ることを目的に、駆除作業と生息状況調査を続けて、数年経ってデータを貯めて、どういう傾向があるかを踏まえて、また今後の対策に活かしていこうとしている段階なので、まだ今はやり始めた、取組みかかりの段階という状況です。(環境共生課)

●頑張ってくださいと思います。(村上委員)

→はい、ありがとうございます。(環境共生課)

●水前寺のまちおこしをやっております永野と申します。先ほど大住さんがおっしゃられた意見に私も同感でございます、熊本は「緑」と「水」でございますね。特に水前寺あたりにおきましては、まだ湧き水もございますし、私どもの地域では藻器堀川というのがございまして、そこには、まだまったくそのままの自然がございまして、だから地元で大事にしておりますが、やはり先ほども、藻を全部全滅したいと、その利点はよく分かりました。私どもは少し残して、またそこで産卵するとか、そういうことも色々お聞きして、自然を大事にしながら、川を守っていこうと思っております。この委員会が中長期的ということでございますので、外来種とかは本当に長い目で、ずっと努力して、根絶していかなければいけない問題だと思いますし、また緑化フェアに関しましては、もう3年後でございますので、そのことに関しては、急がなければいけない問題だと思います。それでぜひ、水前寺江津湖公園周辺ということでございましたら、緑と一緒にこの水をみていただきたいと思うのです。特に藻器堀川から加勢川にいたって、江津湖の上流においては、まだまだ湧き水も多ございます、とても綺麗でございます。ただ問題は、そこから下流にいたったところでは、散歩する方

も多く、大変ペットボトルとか、ああいうごみもございます。斎藤橋あたりにおきましては、ごみも非常に多ございます。大水がでたりしますと、そういうごみもあの辺には溜まります。ですから、最近ペットボトルの害が言われておりますけれども、こういう綺麗にすることに関しての取組みは行政だけでは大変難しいものもあるかと思っておりますので、やはり個人の方々の協力も、地域の協力も必要と思われましますので、今回ぜひそういうところにも観点を置いていただいて、伝えていただきたいと思えます。以上です。(永野委員)

- 文化協会の方から申し上げます。この全体の協議会がどういうものかあまりよく分からなくて、指名で出てまいりましたけれども、こういうかなり技術的な生物や資源、生物資源に関する、あるいは水との問題について、専門的だったり、技術的な、実感的な話がいっぱいしております。それも大変大事な視点だと思えますが、先ほど自己紹介のときに、県立図書館の館長さんからこういうものもありますよというまた別の視点の提起もございました。環境文化といっても、たしかに文化ですけども、ここは、ひとつの文学ゾーン、歴史ゾーン、水前寺から江津湖にかけてひとつのまとまった熊本が誇れるひとつのある意味では文学ゾーンでもあるわけです。歴史ゾーンでは、今までも説明がありましたように、漱石旧居の問題、ジェーンズ邸の問題、能楽堂、そういった問題を全部色々どう配置するか、それをどう熊本の歴史的な文化的建造物と有機的に配合しながら、熊本全体の文化的発信能力を高めるかという視点も大事ですが、それはたぶん熊本市が、あるいは市民がどういうふうな熊本の文化事業の配置のあり方を考えているかということと深く関係します。そういう大きな見取り図の中で、この水前寺の江津湖のあり方を議論しなければ、水や藻の話とかそれも文明史的に大事なことでありますけれども、やっぱり多面的な文化事業から考えなければなりません。幸いですね、水前寺については最近、文化資源を活かした運動が起こりつつありまして、それをどうやって、水前寺から江津湖に広げて、それをまた熊本市あるいは県の文化歴史事業の中にリンクさせるかという、そういう大きな視点が一方で必要じゃないかと思えます。ここには県立図書館と文化協会しか出席しておりませんので、そういったものと一緒になりながら、大きい方法については、アクティビティ・マネジメント部会という非常に新しい大きな方法や環境部会の水や自然の環境という視点もとり入れつつ、そういったものとともに文化的な視点も忘れないようにどうぞよろしくお願ひしたいと思えます。(岩岡委員)

- 子育て支援ネットワークの西原と申します。私は昔から神水の方にも住んでおりまして、自宅から江津湖が見えております。この中で、やはり思うのが、こういった緑化やいろんなプランがあるんですけど、一番大事なのは、まず私たちこういった専門の方が33名集ってらっしゃいますけど、あとそれとともにあって、その場所に住む地域の方々達、上江津湖でしたら砂取校区であったり、対面は画図校区、下江津湖になりますと広木ですから、泉ヶ丘や若葉が入ってくると思えますけど、

この専門だけの話ではなく、これが短期的、中期的、長期的というですねプランになっていますので、やはりどうしてもサステナブル性が必要になってくるということは、私たち委員や行政だけではなく、その地域の方たちが、やはりその町内清掃なんかは定期的にやって、江津湖の生態維持や美化、そしてやはり永く住んでいるということは、それぞれの景観やいろいろなものの思いがありますので、そういったものの参画、啓発なんかを、もちろん今日ご出席の自治協議会長さんが校区の方におろしていかれて、それが参画になるのか、参加になるのかは、まだわかりませんが、そういった視点がないとやはりまちづくりや地域再生なんかは地元の意識というのがやはり継続性にはとても大事ではないかなというふうに思ったので、意見をさせていただきます。(西原委員)

- 秋津自治会の藤山です。江津湖は、ほんと熊本の宝と言われるように、魅力がありますけど、なかなか全国に発信するような気運が乏しいとっております。ちょっとお聞きしますけど、江津湖の水面下は熊本県の管理ですかね。水面から上は熊本市の管理というふうに聞いているんですけど、それでいいですか。そんな中で江津湖を管理する立場の熊本県が入っていないのは、ちょっとと思いますので、そこもご検討。(藤山委員)

→全部含めて市の管理です。(副会長)

→全て市です。(会長)

- 水面下もですか。(藤山委員)

→そうです。(会長)

- 以前は県の管理というふうな形で聞いていたんですけどね。(藤山委員)

→政令前ですね。(会長)

- はい、では浚渫関係も熊本市ですか。今までは県がやるやるといってやれなかったと聞いているんですけど、熊本市が、できれば熊本市がやるということですね。(藤山委員)

→やる必要があるならば。(事務局)

- あるでしょ。そこが魅力アップのために必要なとこなんですけども、なかなか色々な事情があってできないということです。それは分かっておりますけどね。それで緑化祭決定までに、そしてまた準備がそれまでにするということで、この外来魚、外来植物、この一掃というのはもう至上命題だと私思いますけど、今まで外来魚の回収について、どのくらい回収できているのか。電気ショッカー船と回収ボックスで受け入れがどれくらいあるかなと思います。(藤山委員)

→外来魚の回収量については、条例を施行した最初は、回収する頻度も高かったので、匹数でいうと、H27年度が460匹程度、H28年度が260匹、H29

年度が160匹程度で、全体で今のところ回収に関しては、884匹、この3カ
年では、そのくらいになっています。電気ショッカー船による捕獲数について生
息状況調査を通してが、H27年度が150、H28年度が170、H29年度
が190で、全体500匹程度、H29年度は駆除業務も行っており945匹捕
っております。（環境共生課）

●今の捕獲数を聞きますとまだまだ足りないと思います。私もライオンズクラブで外来
植物の駆除、外来魚の駆除、いろいろやりましたけれども、そういう気持ちの人はい
っぱいおられると思います。しかし、少人数でも追いつかないんですね。一掃す
るには、相当な努力が必要になってくると思います。魚を釣る、外来魚を釣る子ども
達はかなりおるとは思いますけどね。そういう子ども達を教育というかそういうことで
外来魚ハンターというような形で協力を願うとか、そういう形で、多くの市民に依頼
しないとなかなか難しいと思いますし、緑化祭の開催までに外来魚と外来植物、これ
を一掃するような目標を掲げてやるような気運がないと、なかなか盛り上がってこな
いのではないかとこの心配はあります。（藤山委員）

●その他、何かございますか。（会長）

●九州大学の藤田です。まずは、この協議会の進め方についてお願いがあります。今日
の議題ですが、資料（1）から（2）の2-1～2-5までお示し頂きましたが、この
内容は、議題といいつつも報告であったり、情報共有というものであったと思います。
その状態で「じゃあ委員の皆さん発言をどうぞ」と言われると、それぞれの皆さんが自
分の関心事項を発言するという場になるというのはだいたい想像がつきます。もしも
今日の会議がそれを目的とされているのであればそれで良かったと思うのですが、折
角これだけの人数の方が一同に会する会議というのが年に4回あるということでは
ないので、次回からはよりこの会議の実効性を考えて頂きたいと思います。つまり、この
推進協議会の目的は短期・中期・長期の計画を策定するということだと明記されてい
ます。それに対してどういうふうに、戦略的にこの会を運用していくのかを明確に示
されると、委員の皆さんが何を発言し、どういう方向性を見ていけばいいのかがより
明確になるのではないかなと思いますので、ぜひそれを次回からはお願いしたいと思
います。それぞれの皆様は各組織を代表して出てこられるわけですから、ここで協議
をする内容について事前に各組織の中で議論をして、そこから出てきた結果を本会議
に持ち寄るといような、そういう形をぜひとっていただきたいと思います。
部会がふたつありますね、アクティビティ・マネジメント部会と環境部会というのが
あります。それぞれの部会に所属している方たちは、その部会の中で意見を一度出し
て、それを集約するという機会を持っていらっしゃるんですけども、先ほども何人か
の委員の方がおっしゃっていましたが、この水前寺江津湖を一番地域で守ってきて、
これからも守っていく方たちは、地域の皆さんです。自治協議会、公園愛護会、それ
から関連団体の皆さんだと思います。ですので、その方たちが十分に協議をして、そ

れから場合によっては、地域の中でひとつに意見が集約できるというような、部会に準じるようなものがひとつあってもいいのかなというふうに、これは今日の協議会をみながら思ったことです。少しご検討いただければと思います。

次に、Park-PFI を使って水前寺江津湖に色々な施設をつくるというのは新しい制度を取り入れた良い計画だと思うのですが、そういうときはぜひ熊本市がすでにお持ちの景観計画や景観コード、その他色々なルールにきちんと従って、その景観や環境を害さないようなものを作るという事をしっかりと位置づける、というのが重要であると思いますし、それをこの協議会から強く発信していく必要があるのではないかと思います。ぜひこの協議会の内容が市政に確実に反映されるような形というのを期待しております。以上です。

(藤田委員)

- はい、ありがとうございます。非常に重要なご意見だと思います。その他何かございますでしょうか。事務局ぜひよろしく願いいたします。(会長)

～議題(3)「今後のスケジュール」後～

- はい、今後のスケジュールについて、説明がありましたが、何かご質問、ご意見はございますか。よろしいですか。先ほどの藤田委員のご意見をちゃんと加味して、スケジュールを立てていただきたいと思います。よろしいですか。(会長)

- すみません、田畑です。藤田先生のお話がありましたのはまさにそれだと思うんですけども、継続的に議論を続けていくために、本日の議事録に関しましては、どのように今後我々の方に提示されますでしょうか。我々の記憶もあいまいになるといけません。どう記録され、次の会議につながるのかということが気になります。たとえば次の会の前に、今回の議事録もいただけると、議論の継続性、発展性につながると思いますので、ぜひお願いできればと思います。(田畑委員)

- よろしく願いいたします。その他ご意見ございませんでしょうか。よろしいですか。他にないようですので、議事は全て終了しました。予定より若干遅れておりますが、厚く御礼申し上げます。それでは進行を事務局にお返しいたします。(会長)

- 長時間にわたりまして、ご審議ありがとうございました。また市川会長におかれましては、進行どうもお世話になりました。本日皆様から出ました意見は、江津湖の水と緑、それに自然をどう復活させるかなということが一番だったと思います。またフェアに関しても、貴重な意見をいただきましたので、それとあと地元の意見、これも取り入れながらいきたいと思います。また市川会長からご指摘がございましたように、今後の進め方についても再度検討させていただきます。今紹介がありましたように、部会につきましては、毎月、それと定例会が4回ございますので、皆さんお忙しい中

と思いますが、どうぞ協力のほどをお願いいたします。簡単ではございますが、以上でございます。ありがとうございました。(首席審議員)